

週間感染症情報

2023年20-21週 2023年5月15日より2023年5月28日まで

20週 21週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)	1	
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	16	7
手足口病	2	2
ヘルパンギーナ	2	2
伝染性紅斑		1
感染性胃腸炎	77	87
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹	1	2
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	1
ヘルペス性口内炎	1	
アデノウイルス感染症	1	4
RSウイルス感染症	10	4
マイコプラズマ感染症		
ヒトメタニューモウイルス		
インフルエンザ	20	10
インフルエンザ A	20	10
インフルエンザ B		
新型コロナウイルス感染症	14	19

色々な感染症の報告が増えています。普通の生活がもどってきて、感染の機会が増えたことと、流行がなかったため抗体のない小児が多いことが関係していると思われます。全国ではインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の集団発生が報告されています。体調不良の場合は無理せず休みましょう。また、周囲で流行がある場合はマスクを着用しましょう。

新型コロナウイルス感染症は、20週より吉備医師会の先生方からの報告を含めています。ちなみに、小児科医の報告数は20週(11例)、21週(9例)でじわじわと増加しています。また、教育委員会からの報告も20週より増えています。

インフルエンザAは、19週から東小関連の症例が多かったですが、ようやく終息してきています。

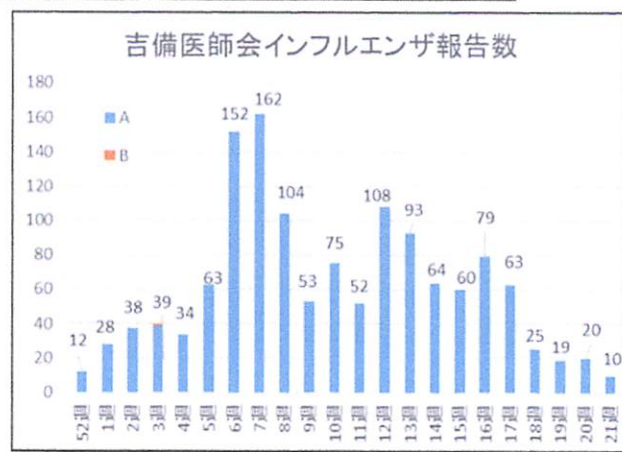
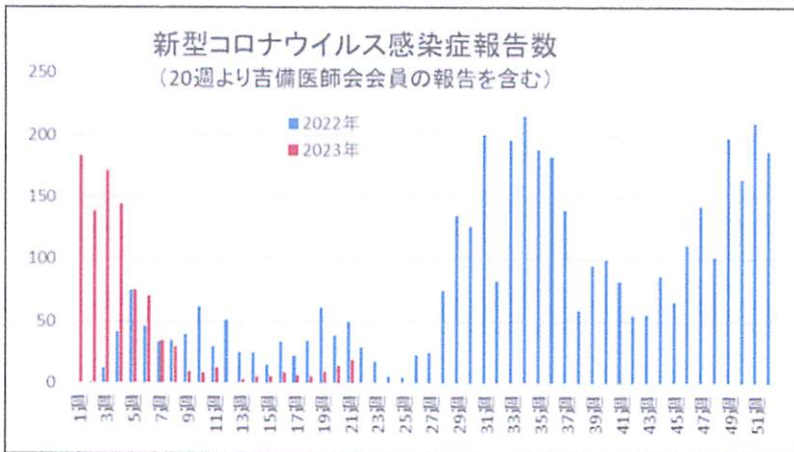
溶連菌感染症が増えています。手足口病・ヘルパンギーナなど夏のウイルス感染症をみかけるようになりました。

感染性胃腸炎は、ノロウイルスと思われる嘔吐が目立つ例と、嘔吐がなく下痢が目立つ例、複数のウイルスがあるようです。カンピロバクター腸炎が増えています。焼き肉・焼き鳥などの摂取歴を聴取して、発熱・腹痛が強い場合は便培養をして下さい。

RSウイルス感染症が増えています。多くは長引く風邪ですみませんが、細気管支炎・肺炎を起こして入院する例もあります。

麻疹が、接種率が低下して世界各地で流行しています。1歳になったらすぐにMRワクチンを接種しましょう

小児の予防接種率の低下が心配です。コロナも含めてワクチンで予防できる病気はワクチンで防ぎましょう。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)